

## 校異源氏物語・こてふ

やよひのはつかあまりのころほひ春の御前のありさまつねよりことにつくして  
にほふ花の色とりのこゑほかのさとはまたふりぬにやとめつらしうみえきこ  
ゆ山のこたちなかしまのわたりいろまさるこけのけしきなとわかき人くのは  
つかに心もとなくおもふへかめるにからめいたるふねつくらせ給けるいそきさ  
うそかせ給ひておろしはしめさせ給ひはうたつかさの人めして舟のかくせらる  
みこたちかむたちめなとあまたまいり給へり中宮この比さとおはしますかの  
春まつそのはとはけましきこえ給へりし御かへりもこの比やおほしおとゝの  
君もいかてこの花のおり御らむせさせむとおほしのたまへとついでなくてか  
るらかにひわたりはなをもゝてあそび給ふへきならねはわかき女はうたちの  
ものめてしぬへきをふねにのせ給うてみなみのいけのこなたにとほしかよはし  
なさせ給へるをちるさき山をへたてのせきにみせたれとそのやまのさきよりこ  
きまひてひむかしのつり殿にこなたのわかき人くあつめさせたまふ龍頭鷁首  
をからのよそひにことくしうしつらひてかちとりのさをさすわらはへみなみ  
つらゆひてもろこしたゝせてさるおほきなるいけのなかにさしいてたれはまこ  
とのしらぬくにゝきたらむ心ちしてあはれにおもしろくみならはぬ女はうなど  
はおもふなかしまのいりえのいはかけにさしよせてみればはかなきいしのたゝ  
すまひもたゝゑにかいたらむやうなりこなたかなたかすみあひたるこすゑとも  
にしきをひきわたせるにおまへのかたははるくときやられていろをましたる  
やなきえたをたれたる花もえもいはぬにほひをちらしたりほかにはさかりすぎ  
たるさくらもいまさかりにほおえみらうをめくれるふちの色もこまやかにひら  
けゆきにけりましていけのみつにかけをうつしたるやまふききしよりこほれて  
いみしきさかりなりみつとりものつかひをはなれすあそひつゝほそきえたと  
もをくひてとひちかふをしのなみのあやにもんをましへたるなどものゝゑやう  
にもかきとらまほしきまことにをのえもくたいつへうおもひつゝひをくら  
す

かせふけはなみの花さへ色みえてこやなにたてるやまふきのさき  
はるのいけやゐてのかはせにかよふらんきしの山ふきそこもにほへり

かめのうへの山もたつねしふねのうちにおいせぬなをはこゝにのこさむ

春の日のうらゝにさしてゆくふねはさほのしつくも花そちりけるなとやう

のはかなことゝもを心くゝにいひかはしつゝゆくかたもかへらむさともわすれぬへうわかき人くゝの心をうつすにことはりなる水のおもになむくれかゝるほとにわうしやうといふかくいとおもしろくきこゆるに心にもあらずつり殿にさしよせられておりぬこゝのしつらひいことそきたるさまになまめかしきに御方かたのわかき人どものわれおとらしとつくしたるさうすくかたちはなをこきませたるにしきにおとらすみえわたる世にめなれすめつらかなるかゝともつかうまつるまひ人など心ことにえらはせ給て夜にいりぬれはいとあかぬ心ちして御前のはにかゝり火ともしてみはしのもとのこけのうへにかく人めしてかんだちめみこたちもみなをくゝひきものふきものとりとりにしたまふものゝしともことにすぐれたるかきりそうてうふきてうへにまちとる御ことゝものしらへいとはなやかにかきたてゝあなたうとあそひ給ふほといけるかひありとなにのあやめもしらぬしつのをみかとのわたりひまなきむまくるまのたちとにましりてゑみさかへきゝけりそらのいろものゝねもはるのしらへひゝきはいとことにまさりけるけちめを人くゝおほしわくらむかし夜もすからあそひあかし給かへりこゑに喜春樂たちそひて兵部卿みやあをやきおりかへしおもしろくうたひ給あるしのおとゝもことくはへ給ふ夜もあけぬあさほらけのとりさえつり中宮はものへたてゝねたうきこしめしけりいつも春の光をこめ給へるおほ殿なれと心をつくるよすかのまたなきをあかぬ事におほす人くゝもありけるにしのたいのひめ君こともなき御ありさまおとゝのきみもわさとおほしあかめきこえたまふ御けしきなどみなよにきこえいてゝおほしもしるく心なひかし給人おほかるへしわか身さはかりとおもひあかり給ふきはの人こそたよりにつけつゝけしきはみこといできこえ給ふもありけれえしもうちいてぬ中の思ひにもえぬへきわかきむたちなどもあるへしそのうちにことの心をしらてうちのおほいどのの中將などはすきぬへかめり兵部卿の宮はたところおはしけるきたの方もうせ給てこのみとせはかりひとりすみにてわひたまへはうけはりていまはけしきはみたまふけさもいいたうそらみたれしてふちのはなをかさしてなよひさうとき給へる御さまいとおかしおとゝもおほしゝさまかなふとしたにはおほせとせめてしらすかほゝつくり給御かはらけのついでにいみしうもてなやみたまうておもふ心侍らすはまかりにけ侍なましいとたえかたしやとすまひ給ふむらさきのゆへにこゝろをしめたればふちに身なけんやはおしけきとて

おとゝの君におなしかさをまいり給いといたうほをゑみ給ひて

ふちにみをなけつへしやとこの春は花のあたりをたちさらてみよとせちにとゝめたまへはえたちあかれ給はてけさの御あそひましていとおもしろしけふは中宮のみと経のはしめなりけりやかてまかて給はてやすみ所とりつゝひの御よそひにかへ給ふ人ゝもおほかりさはりあるはまかてなとしたまふむまの時ばかりにみなあなたにまいり給ふおとゝの君をはしめたてまつりてみなつきわたり給ふ殿上人などものこるなくまいるおほくはおとゝの御いきほひにもてなされ給ひてやむことなくいつくしき御ありさまなりはるのうへの御心さしにほとけにはなたてまつらせ給ふとりてふにさうそきわけたるわらはへ八人かたちなどことにとゝのへさせ給ひてとりにはしろかねのはなかめにさくらをさしてふはこかねのかめにやまふきをおなしきはなのふさいかめしう世になきにほひをつくさせ給へりみなみの御まへのやまきはよりこきいてゝをまへにいつるほと風ふきてかめのさくらすこしうちゝりまかふいとうらゝかにはれてかすみのまよりたちいてたるはいとあはれになまめきてみゆわさとひらはりなともうつされすおまへにわたれるらうをかくやのさまにしてかりにあくらともをめしたりわらはへともみはしのもとによりてはなともたてまつる行香の人ゝとりつきてあかにくはへさせ給御せうそこ殿の中将の君してきこえ給へり

はなそのゝこてふをさへやしたくさに秋まつむしはうとくみるらむ宮かの紅葉の御かへりなりけりとほおゑみて御らむすきのふの女はうたちもけに春のいろはえおとさせ給ましかりけりとほなにおれつゝきこえあへりうくひすのうらゝかなるねにとりのかくはなやかにきゝわたされていけのみつとりもそこはかとなくさへつりわたるにきうになりはつるほとあかすおもしろしてうはましてはかなきさまにとひたちてやまふきのませのもとにさきこほれたる花のかけにまひいつる宮のすけをはしめてさるへきうへ人ともろくとりつゝきてわらはへにたふとりにはさくらのほそなcateふにはやまふきかさね給はるかねてしもとりあへたるやうなりものゝしともはしろきひとかさねこしさしなとつきゝにたまふ中將の君にはふちのほそなかそへて女のさうそくかけ給ふ御かへりきのふはねになきぬへくこそは

こてふにもさそはれなましこゝろありてやへ山ふきをへたてさりせはとそありけるすくれたる御らうともにかやうの事はたへぬにやありけむおもふやうにこそみえぬ御くちつきともなめれまことやかのみものゝ女はうたち宮のにはみなけしきあるをくりものともせさせ給ふけりさやうのことくはしければむつ

かしあけくれにつけてもかやうのはかなき御あそひしけく心をやりてすくし給へはさふらふ人もをつからものおもひなきこゝちしてなむこなたかなたにもきこえかはし給ふにしのたいの御方はかのたうかのおりの御たいめんのゝちはこなたにもきこえかはし給ふかき御心もちるやあさくもいかにもあらむけしきいとらうありなつかしき心はへとみえて人の心へたつへくもゝのしたまはぬひとさまなれはいつかたにもみな心よせきこえ給へりきこえ給人いとあまたものし給されとおとゝおほろけにおほしさたむへくもあらずわか御心にもすくよかにおやかりはつましき御心やそふらむちゝおとゝにもしらせやしてましなとおほしよるおりゝもありとのゝ中将はすこしけちかくみすのもとなどにもよりて御いらへ身つからなとするも女はつゝましうおほせとさるへきほどゝ人ゝもしりきこえたれは中将はすくゝしくておもひもよらす内のおほいとのゝ君たちはこの君にひかれてよろつにけしきはみわひありくをその方のあはれにはあらてしたに心くるしうまことのおやにさもしられたてまつりにしかなと人しれぬ心にかけてたまへれとさやうにもゝらしきこえ給はすひとへにうちとけたのみきこえ給心むけなとらうたけにわかやかなりにとはなけれとなをはゝ君のけはひにいとよくおほえてこれはかとめいたるところそゝひたるころもかへのいまめかしうあらたまれるころほひそらのけしきなとさへあやしうそこはかとなくおかしきをのとやかにおはしませはよろつの御あそひにてすくし給ふにたいの御方に人ゝの御ふみしけくなりゆくをおもひしことゝおかしうおほいてともすれはわたり給ひつゝこらむしさるへきには御かへりそゝのかしきこえ給ひなとするをうちとけするしいことにおほいたり兵部卿の宮のほとなくいられかましきわひことゝもをかきあつめたまへるおほむふみをこらむしつけてこまやかにわらひ給ふはやうよりへたつることなうあまたのみこたちの御なかにこのきみをなんかたみにとりわきておもひしにたゝかやうのすちのことなむゐみしうへたておもふ給ひてやみにしをよのすゑにかくすき給へる心はえをみるかおかしうもあはれにもおほゆるかなゝを御かへりなときこえ給へすこしもゆへあらむ女のかのみこよりほかにまたことのはをかはすへき人こそ世におほえねいとけしきある人の御さまそやとわかき人はめて給ひぬへくきこえしらせ給へとつつましくのみおほいたり右大将のいとまめやかにことゝしきさましたる人のこひのやまにはくしのたうれまねひつへきけしきにうれへたるもさるかたにおかしとみなみくらへ給なかにからのなたのかみのいとなつかしうしみふかうにほへるをいとほそくちひさくむすひたるありこれはいかなれはかくむ

すほゝれたるにかとてひきあげたまへりていとおかしうて

おもふとも君はしらしなわきかへりいはもるみつにいろしみえねはかきさ

まるめめかしうそほれたりこれはいかなるそとゝひきこえ給へとはかくしうもきこえ給はす右近をめしいてゝかやうにをとつれきこえん人をはひとえりしていらへなどはせさせよすきくしうあされかましきいまやうの人のひんないことしいてなどするをのこのとかにしもあらぬ事なりわれにて思ひしにもあなゝさけなうらめしうもそのおりにこそむしむなるにやもしはめさましかるへききはゝけやけうなどもおほえけれわさとふかゝらてはなてふにつけたるたよりことは心ねたうもてないたるなかく心たつやうにもありまたさてわすれぬるはなにのとかゝはあらむものゝたよりはかりのなをさりことにくちどう心えたるもさらてありぬへかりけるのちのなむとありぬへきわさなりすへて女のものつゝみせす心のまゝにものゝあはれもしりかほつくりおかしき事をもみしらんなんそのつもりあちきなかるへきを宮大将はおほなくゝなをさりことをうちいて給へきにもあらずまたあまりものゝほとしらぬやうならんも御ありさまにたかへりそのきはよりしもは心さしのおもむきにしかひてあはれをもわき給へらうをもかそへ給へなときこえ給へはきみはうちそむきておはするそはめいとおかしけなりなてしこのほそなかにこのころのはなのいろなる御こうちきあはひけちかういまめきてもてなしなどもさはいへとゐなかひ給へりしなこりこそたゝありにおほとかなるかたにのみはみえ給ひけれ人のありさまをもみしり給ふまゝにいとさまようなよひかにけさうなとも心してもてつけたまへれはいとゝあかぬ所なくはなやかにうつくしけなりこと人とみなさむはいとくちおしかへうおほさるうこむもうちゑみつゝみたてまつりておやときこえんにはにけなうわかくおはしますすみさしならひたまへらんはしもあはひめてたしかしとおもひゐたりさらに人の御せうそこなとはきこえつたふる事侍らすさきさきもしろしめし御らむしたるみつよつはひきかへしはしたなめきこえむもいかゝとて御ふみはかりとりいれなし侍めれと御かへりはさらにきこえさせ給ふおりはかりなむそれをたにくるしいことにおほいたるときこゆさてこのわかやかにむすほゝれたるはたかそいいたうかいたるけしきかなとほゝゑみて御らんすれはかれはしふねうとゝめてまかりにけるにこそ内のおほいとのゝ中将のこのさふらふみるこそそもとよりみしり給へりけるつたへにて侍けるまたみいるゝ人も侍らさりしにこそときこゆれはいとらうたき事かなけらうなりともかのぬしたちをはいかゝいときはゝしたなめむ公卿といへとこの人のおほえにかなら

すしもならふましきこそおほかれさるなかにもいとしつまりたる人なりをのつから思ひあはする世もこそあれけちえむにはあらてこそいひまきはさめみところあるふみかきかな、ととみにもうちをきたまはすかうなにやかやときこゆるをもおほす所やあらむとや、ましきをかのおと、にしられたてまつり給はむ事もまたわか／＼しうなにとなきほとにこゝらとしへ給へる御なかにさしいて給はむ事はいか、とおもひめくらし侍るなを世のひとのあめるかたにさたまりてこそはひとひとしうさるへきついても、のしたまはめとおもふを宮はひとりものし給やうなれとひとからいいたうあためてかよひたまふところあまたきこえめしうと、かにくけなるなのりする人ともなむかすあまたきこゆるさやうならむ事はにくけなうてみなほいたまはむ人はいとよなたらかにもてけちてむすこし心にくせありては人にあかれぬへきことなむをのつからいてきぬへきをその御心つかひなむあへき大将はとしへたる人のいたうぬひすきたるをいとひかてにともとむなれとそれも人／＼わつらはしかるなりさもあへい事なれはさまさまになむ人しれす思ひさためかね侍るかうさまのことはおやなどにもさはやかにわかおもふさまとてかたりいてかたきことなれとさはかりの御よはひにもあらしいまはなとかなにことをも御心にわいたまはさらむまろをむかしさまになすらへては、君と思ひないたまへ御心にあかさらむことは心くるしくなといとまめやかにてきこえ給へはくるしうて御いらへきこえむとおほえ給はすいとわか／＼しきもうたておほえてなにこともおもひしり侍らさりけるほとよりおやなどはみぬものにならひ侍てともかくも思ふたまへられすなむときこえ給さまのいとおいらかなれはけにとおほいてさらは世のたとひの、ちのおやをそれとおほいてをろかならぬ心さしのほともみあらはしはて給てむやなとうちかたらひ給おほすさまのことはまはゆければえうちいて給はすけしきあることは、とき／＼ませ給へとみしらぬさまなれはすゝろにうちなけかれてわたり給おまへちかきくれたけのいとわかやかにおいたちてうちなひくさまのなつかしきにたちとまり給うて

ませのうちにねふかくうへし竹のこのをのかよゝにやおひわかるへきおもへはうらめしかへい事そかしとみすをひきあけてきこえ給へはあさりいて、いまさらにいかならむよかわかたけのおいはしめけむねをはたつねんなか／＼にこそ侍らめときこえ給ふをいとあはれとおほしけりさるは心のうちにはさもおもはすかしいかならむおりきこえいてむとすらむと心もとなくあはれなれとこのおとゝの御心はへのいとありかたきをおやときこゆとももとよりみな

れたまはぬはえかうしもこまやかならすやとむかしものかたりをみ給にもやうく人のありさま世中のあるやうをみしり給へはいとつゝましう心としられたてまつらむことはかたかるへうおほすとのはいとゝらうたしとおもひきこえ給ふうへにもかたり申たまふあやしうなつかしき人のありさまにもあるかなかのいにしへのはあまりはるけ所なくそありしこの君はものゝありさまもみしりぬへくけちかきこゝろさまそひてうしろめたからすこそみゆれなとほめたまふたゝにしもおほすましき御心さまをみしり給へはおほしよりてものゝ心えつへくはものし給ふめるをうらなくしもうちとけたのみきこえ給らんこそ心くるしけれとのたまへはなとたのもしけなくやはあるへきときこえ給へはいてやわれにてもまたしのひかたうものおもはしきおりおりありし御心さまの思いてらるゝふしふしなくやはとほゝゑみてきこえ給へはあな心とゝおほいてうたてもおほしよるかないとみしらすしもあらしとてわつらはしければの給ひさして心のうちに人のかうをしはかり給ふにもいかゝはあへからむとおほしみたれかつはひかくしうけしからぬわかこゝろのほともおもひしられ給ふけり心にかゝれるまゝにしはくわたり給ひつゝみたてまつり給あめのうちふりたるなこりのいともものしめやかなるゆふつかた御まへのわかゝえてかしわきなどのあをやかにしけりあひたるかなにとなく心ちよけなるそらをみいたし給ひてわしてまたきよしとうちすし給うてまつこのひめ君の御さまのにほひやかけさをおほしいてられていのしのひやかにわたり給へりてならひなとしてうちとけ給へりけるをおきあかり給てはちらひ給へるかほのいろあひいとおかしなこやかなるけはひのふとむかしおほしいてらるゝにもしのひかたくてみそめたてまつりしはいとかうしもおほえ給はすと思ひしをあやしうたゝそれかとおもひまかへらるゝおりくゝこそあれあはれなるわさなりけり中將のさらにむかしさまのにほひにもみえぬならひにさしもにぬものと思ふにかゝる人もゝのしたまうけるよとてなみたくみ給へりはこのふたなる御くたものゝなかにたちはなのあるをまさくりて

たちはなのかほりしそてによそふれはかはれるみともおもほえぬかなよとゝもの心にかけてわすれかたきになくさむことなくてすきつるとしころをかくてみたてまつるはゆめにやとのみおもひなすをなをえこそしのふましけれおほしうとむなよとて御てをとらへたまへれば女かやうにもならひ給はさりつるをいとうたておほゆれとおほとかなるさまにてもものし給ふ

そてのかをよそふるからにたちはなのみさへはかなくなりもこそすれむつ

かしとおもひてうつふし給へるさまいみしうなつかしうてつきのつふくゝとこゑ給へるみなりはたつきのこまやかにうつくしけなるに中くゝなるものおもひそふこゝちしたまでけふはすこしおもふときこえしらせ給ひける女は心うくいかにせむとおほえてわなゝかるけしきもしるけれとなにかゝくうとましとはおほいたるいときよくもてかくして人にとかめらるへくもあらぬ心のほとそよさりけなくてをもてかくし給へあさくも思きこえさせぬ心さしにまたそふへければ世にたくひあるましきこゝちなんするをこのをとつれきこゆる人くゝにはおほしおとすへくやはあるいとかうふかき心ある人は世にありかたかるへきわさなれはうしろめたくのみこそとのたまふいとさかしらなる御おや心なりかしあめはやみてかせのたけになるほとはなやかにさしいてたる月かけおかしきよのさまもしめやかなるに人くゝはこまやかなる御ものかたりにかしこまりをきてけちかくもさふらはすつねにみたてまつり給ふ御なかなかれとかくよきおりしもありかたければことにいてたまへるついでの御ひたふる心にやなつかしい程なる御そどものけはひはいとようまきはしすへしたまひてちかやかにふし給へはいと心うく人のおもはむ事もめづらかにいみしうおほゆまことのおやの御あたりならましかはおろかにはみはなち給ふともかくさまのうき事はあらましやとかなしきにつゝむとすれとこほれいてつゝいとこゝろくるしき御けしきなれはかうおほすこそつられもてはなれしらぬ人たによのことはりにてみなゆるすわさなめるをかくとしへぬるむつまじさにかはかりみえたてまつるやなにのうとましかるへきそこれよりあなかななる心はよもみせたてまつらしおほろけにしのふるにあまるほどをなくさむるそやとてあはれけになつかしうきこえ給事おほかりましてかやうなるけはひはたゝむかしの心ちしていみしうあはれなりわか御心なからもゆくりかにあはつけきこととおほししらるれはいとよくおほしかへしつゝ人もあやしとおもふへけれはいたう夜もふかさていて給ぬおもひうとみたまはゝいと心うくこそあるへけれよその人はかうほれくゝしうはあらぬものそよかきりなくそこひしらぬこゝろさしなれはひととかむへきさまにはよもあらしたゝむかしこひしきなくさめにはかなきことをもきこえんおなし心にいらへなとし給へといとこまかにきこへ給へとわれにもあらぬさましていとくゝうしとおほいたれはいとさはかりにはみたてまつらぬ御心はへをいとこよなくもにくみたまふへかめるかなとなけきたまいてゆめけしきなくてをとていて給ひぬ女君も御としこそすくし給ひにたるほとなれ世中をしりたまはぬなかにもすこしうちよなれたる人のありさまをたにみしりたまはねはこれより



けちかきさまにもおほしよらすおもひのほかにもありけるよかなとなけかしきにいとけしきもあしければひとく御心ちなやましけにみえ給ふともてなやみきこゆとの、御けしきのこまやかにかたしけなくもおはしますかなまことの御おやときこゆともさらにかはかりおほしよらぬことなくはもてなしきこえ給はしなど兵部などもしのひてきこゆるにつけていと、おもはすに心つきなき御心のありさまをうとましう思はてたまふにも身そ心うかりけるまたのあした御文とくありなやましかりてふし給へれと人く御すゝりなとまいりて御かへりとくときこゆれはしふくにみたまふしろきかみのうはへはおひらかにすくしきにいとめてたうかいたまへりたくひなかりし御けしきこそつらきしもわすれかたういかに人みたてまつりけむ

うちとけてねもみぬものをわかくさのことありかほにむすほゝるらむおさなくこそものし給ひけれとさすかにおやりたる御ことはもいとにくしとみたまひて御かへり事きこえさらむも人めあやしければふくよかなるみちのくにかみにたゝうけたまはりぬみたり心ちのあしう侍れはきこえさせぬとのみあるにかやうのけしきはさすかにすくよかなりとほゝゑみてうらみ所ある心ちしたまふうたである心かないろにゐてたまひてのちはおほたのまつのおもはせたることなくむつかしうきこえ給ことおほかれはいとゝところせきこゝちしてをき所なきものおもひつきていとなやましうさへし給ふかくてことの心しる人はすくなうてうときもしたしきもむけのおやさまに思きこえたるをかうやうのけしきのもりいてはいみしう人わらはれにうきなにもあるへきかなちゝおとゝなどのたつねしり給にてもまめまめしき御心はへにもあらさらむものからましていとあはつけうまちきゝおほさんことゝよろつにやすけなうおほしみたる宮大將などとはとのゝ御けしきもてはなれぬさまにつたへきゝ給うていとねんころにきこえたまふこのいはもる中將もおとゝの御ゆるしをみてこそかたよりにほのきゝてまことのすちをはしらすたゝひとへにうれしくてをりたちうらみきこえまゝとひありくめり